

# 強制換羽の効果とポイント

## ～正しい技術で生産性を向上させる

今回は、強制換羽の方法を再確認したい。強制換羽は一度休産させることにより、加齢により低下した産卵率や卵質を一時的に回復し、鶏の経済寿命を延長することができる。ヒナ代の節約、卵質の改善、生産調整も同時に行える、一石三鳥の技術である。

最近では低成分の飼料を給与しながら休産処理する「誘導換羽」も普及している。これらの技術をよく理解した上で、上手に生産性の向上を図りたい。

### ●体重管理の意味とポイント

強制換羽の目的は、人為的に産卵をやめさせて卵管を収縮させ、休ませることにある。断餌と光線管理で強制的に換羽を誘導して産卵を止める。このとき、ただ卵巣や卵管を小さくするだけではなく、卵巣や卵管から脂肪を十分に落とすことが重要なポイントとなる。これによって、生殖器官が若返るのである。

強制換羽では体重を25～30%程度落とすのが普通だが、真の目的は、卵管を収縮させることである。体重はあくまでも卵巣・卵管が収縮し休養状態となる目安だと考える。



栄養制限による生殖器官の収縮

例えば春から秋に体重を25～30%落とすには14～20日間かかる。この間に生殖器官は十分に収縮し、たまった脂肪も少なくなる。しかし冬は気温が低い

ため体重の低下が早く、8～12日間程度ですぐに体重が減る。この状態では産卵器官があまり収縮せず、強制換羽後の産卵・卵殻の改善の効果が十分ではなくなってしまう。

産卵器官の脂肪を落とすには、体重を落としたまま最低でも14日間が必要である。したがって、冬場は体重の状況に応じて制限給与なども行いながら、必ず14日間以上をかけて体重を落とし、産卵器官の「脂抜き」をすることが重要となる。

### ●光線管理と誘導換羽

さらに、光線管理を短日処理（ウインドウレスでは8

～10時間の短い照明)にすることも忘れてはならない。産卵再開でステップアップ照明をする際、照明時間の変動幅を大きくでき、産卵刺激を強くすることで効果をより高めることができる。

一方開放鶏舎では、強制換羽の実施前に長時間点灯（18～20時間）にすると、照明時間をステップダウンするときに照明時間の変動幅を大きくできるため、同じく鶏に強い刺激を与えることができ有効である。

また、強制換羽の断餌処理は約2週間かかり、鶏に対して大きなストレスがかかる。そのため免疫機能の低下、腸内細菌叢の大幅な変化が原因となって、サルモネラ菌が腸内に定着しやすくなる。

そこで、サルモネラ対策のために絶食ストレスを抑え、低成分の飼料を制限給与する方法（誘導換羽）が開発された。絶食による強制換羽に比べ、減耗率の低減や産卵成績が改善されることもわかってきている。

特に冬季は体重を落とした状態での維持がしやすく、十分な卵管の休養期間を得ることができ、強制換羽の効果を上げることが可能である。詳しくは全農作成のマニュアル類をご参照いただきたい。

表1：強制換羽中の体重と卵管の重量

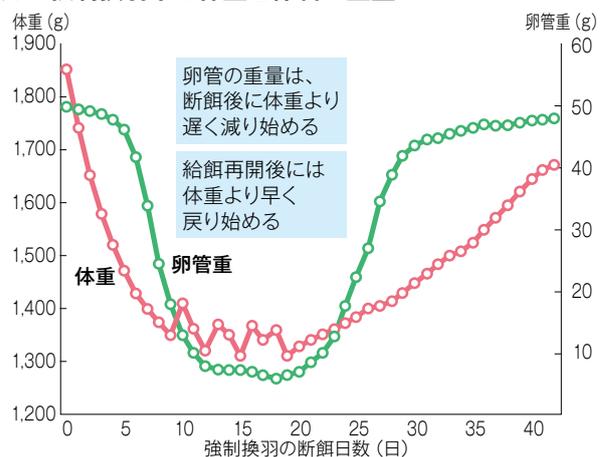


表2：誘導換羽中の給与量と照明時間

